



360°の音と映像に
包まれる、
驚きの世界へ。

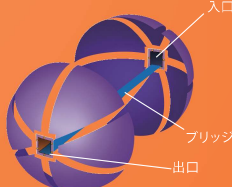
シアター THEATER 360とは？

2005年「愛・地球博」の長久手日本館で人気を博した「地球の部屋」が、国立科学博物館に移設され、「THEATER360（シアター・サン・ロク・マル）」として生まれ変わりました。直径12.8m（実際の地球の約100万分の1の大きさ）のドームの内側すべてがスクリーンになっていて、その中のブリッジに立ち、映像をご覧いただけます。360°全方位に映像が映し出され、独特の浮遊感などが味わえるシアターです。



THEATER 360 イメージ図

12枚の扇形で全球に
映像を投影しています。



THEATER 360 の映像システム

シアター THEATER 360 をご鑑賞にあたっての注意事項

- おことわり：映像の特性上浮遊感やスピード感があり、気分が悪くなるおそれがあります。特に、「小さいお子様」、「体調のすぐれない方」、「妊娠中の方」、「ご高齢の方」、「心臓疾患をお持ちの方」などは充分ご注意ください。また、「飲酒されている方」、「付き添いのいない未就学児童」、「未就学児童の団体」のご入場はご遠慮願います。
- 禁止事項：シアター内での飲食、上映中の撮影、携帯電話の使用、火気の使用、肩車。その他は、係員の指示に従ってください。



飲食



撮影



携帯電話の使用



火気の使用



肩車

国立科学博物館利用案内

【開館時間】 9:00～17:00（入館は16:30まで）

【常設展示館料】 一般・大学生 630円（20名以上団体 510円）、高校生以下 無料

【閉館日】 毎週月曜日（日・月曜日が祝日の場合は火曜日）

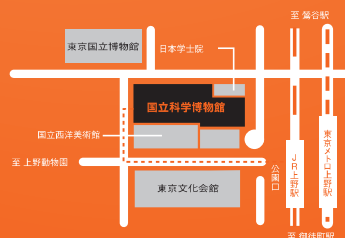
年末年始（12月28日～1月1日）

※特別展等により変更することがあります。

【アクセス】 JR「上野駅」公園口から徒歩5分。

東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」から徒歩10分。

京成電鉄「京成上野駅」から徒歩10分。※駐車場はありません。



日本の
固有種の
旅

日本の川

- 固有種との出会いの旅 -

ユーラシア大陸の東の端に浮かぶ日本列島は、そこにしか生息していない動植物、すなわち「固有種」が多い地域として知られています。地域ごとに異なる表情を見せる日本の川には、どのような生き物が生息しているのでしょうか？ 日本各地の特徴的な川を旅しながら、そこに生息する植物や両生類に会いにいきましょう。

SCENE 1 オープニング

ユーラシア大陸の東の端に浮かぶ日本列島は、そこにしか生息していない動植物、すなわち「固有種」が多い地域として知られています。

日本にたくさんの固有種がいるのは、日本列島が大陸から切り離され、地殻変動で多様な地形が作られ、変化し続けるからです。

地域ごとに異なる表情を見せるのが、川。山をくだる急流から平野のゆるやかな流れまで、日本の川には、それぞれの環境に適応した多くの固有種がくらししています。

SCENE 2 渓流沿いの植物

まずは、植物をみてみましょう。切り立った川岸には、サツキやヤシャゼンマイなど日本固有の植物が多く知られています。

SCENE 3 降雨中の道志川

こうした渓流沿いの植物は、ひとたび大雨になると、あっという間に増水した川に飲み込まれてしまいます。

SCENE 4 生き残ったヤシャゼンマイ

ようやく水が引きました。ゼンマイに比べて葉の幅が狭いやシャゼンマイは、水の抵抗が少ないので、激しい流れに耐えられるのです。

SCENE 5 日本の固有種

日本の植物種の4分の1は固有種とされます。

一方、動物では、海を泳いだり、空を飛んだりできない両生類は、そのほとんどが固有種です。では、日本各地には、どのような両生類がいるのでしょうか？

SCENE 6 鳥取県 日野川

なだらかな山並みの山陰地方。山間の田んぼの間を流れる川には、世界最大級の両生類が棲んでいます。

SCENE 7 世界最大級の両生類

夜になると…ほら、活動を始めました。オオサンショウウオです。400万年以上前、大陸とつながっていた西日本にわたってきた後、大陸の川とは異なる環境のなかで固有種となったと考えられています。

SCENE 8 オオサンショウウオの抱卵

秋になると、オオサンショウウオは河岸の巣穴で産卵します。又シと呼ばれるオスが1匹で、卵を揺らし、尾で新鮮な水を送って世話をしします。

そしておよそ5ヶ月後。孵化した幼生が泳ぎ出すまで、又シの子育ては続きます。

そのころには巣穴の外はすっかり冬。雪景色です。

SCENE 9 ナガレタゴガエル

同じころ、ここは東京西部の山あい。真冬の渓流では、ナガレタゴガエルが早くも産卵の時期を迎えています。極寒の川底で繰り広げられるメスをめぐるオスたちの「カエル合戦」ときに間違っても魚に抱き着いてしまうことも。

無事にパートナーは見つかったでしょうか。

SCENE 10 オキナワイシカワガエルとホルストガエル

同じころ、こちらは亜熱帯に位置する沖縄

沖縄本島北部、一年を通して温暖なやんばるの森には、「オキナワイシカワガエル、ホルストガエルなどの」沖縄諸島に固有の珍しいカエルが棲んでいます。冬のやんばるは、溪流にすむカエルたちでにぎわいます。

SCENE 11 ハナサキガエルの卵

滝つぼの中で産卵するハナサキガエルの白い卵は、やんばるの真珠とも呼ばれます。

SCENE 12 沖縄の滝

やんばるの豊富な雨は豊かな川と森をばぐくみ、太古の昔から息づく固有種たちのゆりかことなってきたのです。

SCENE 13 北海道 釧路湿原

今度は、4月が近づいてもまだ雪の残る北海道の釧路湿原にやってきました。

この広大な湿原は、川が作り出しました。ここにはユーラシア大陸と陸続きだった時代に、北方からやってきたと考えられる生き物たちが棲んでいます。

SCENE 14 キタサンショウウオ

シベリアに広く分布する、キタサンショウウオ。日本の固有種ではありませんが、ここ釧路湿原がもっとも南の生息地です。青く輝く卵は「湿原のサファイヤ」とも呼ばれます。

SCENE 15 エンディング

地球上で最も地殻変動が活発な地域に位置し、南北3000kmにも広がる日本列島。亜寒帯から亜熱帯に及び、湿潤な大地では、春夏秋冬の季節の移り変わりと共に、その景観や生き物たちが、さまざまな表情を見せてくれます。

絶え間なく変化しながらも、固有の生き物を生み出し、支え続ける日本の川。生命と環境の物語に出会う旅にあなたも出かけてみませんか。